

1面	司祭と信徒の懇談会
2面	司祭と信徒の懇談会 震災被災地支援活動
3面	カン・ウイル司教講演②
4面	移住連全国フォーラム
5面	共同回心式日程 街頭募金活動・他
6面	2・11信教の自由集会 ニュースあれこれ

第39号

発行

北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立泰治

編集

北九州信徒協広報部
担当司祭 中村 彰
担当委員 岩本光弘

カトリック 北九州地区

信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

1月18日
小倉教会

北九州地区信徒協のこれからを徹底討論 信徒・司祭それぞれの思いを語る

13回目となった司祭の皆さんと信徒との懇談会は、10月の会議で北九州地区信徒協の会則について牧山神父より新提案があり、その提案を受けてしっかりと話し合い、意見交換しようとなったものです。今回の懇談には宮原司教と8人の司祭、信徒は約40人が参加しました。3時間近くに及び懇談で何が見えてきたのでしょうか。大まかに要点をお伝えしたいと思います。(広報部)

初めに地区長の牧山神父がおよそ次のように話しました。

【経過説明と提案】

前年度にできた北九州地区信徒協会則案を今年度、司教様へ提出し話し合いました。

①教区長との話し合い
信徒協は地区を網羅するものだから各教会から代表者を出した方がいい。代表者も各教会の代表者も主任司祭の承認が必要である。その他役職交代の件など。

②司祭との話し合い
①のことを司祭集会で討議し、会則の試案を作って9月に話しあった。

③信徒協との話し合い
昨年10月の代表者会議でこれまでの経緯を説明したところ、

種々の疑問、質問等が出された。そこで1月18日に話し合うようになった。

④修正したい点

・信徒協は地区全教会で構成される。

・代表者は主任司祭の承認を受けた者であること。

・代表者会議は各教会と各教会の代表者で開催される。

・任期は1期2年、再任できる。3期以上はできない。

⑤このようなことを教区長とも話しあいましたが、後日これらの点について司祭団と信徒協と話し合うようにと書面で指示を受けました。

【信徒からの意見】

①組織論よりも、信徒使徒職

の目的について話したい。何かお伺いをたてなければ動けない感じがします。動きやすい環境を作っていただきたい。

②信徒協が地区を網羅するという認識は、信徒協にはありません。網羅するというのは地区の代表者会議のような印象です。この点は以前の川島会長時代に、信徒協は地区の連絡網ではないと。連絡網ならFAXで済むとのことでした。また、信徒協が使徒職団

体のように書かれています。使徒職活動を推進するための協議の場です。

③任期で3期はだめというのには理解できても、たとえば小教区では代わりの人が見つからないのが現実。脱線しないための会則ですが、ケースバイケースでなければと思えます。3期になる状況も出てくるのでは。

④主任司祭の承認といいますが、カトリック教会の使徒職団体として認められているグ

ループでも教会の場を使用させないなど理解を示さない主任司祭もいます。また、小教区を越えた使徒職団体もあります。主任司祭の承認がないとだめなら、今後参加できなくなりそうです。信徒の使徒職グループを大いに発展させる方向にもつていかないと。

⑤教会内の病人訪問や助け合いは兄弟として当然のこと、これと信徒使徒職活動を混同してはいけないと思います。この提案からいくと今参加しているグループが参加できなくなります。また、活動グループが多いと会議参加者が

(2ページへ続く)

年末愛の募金活動

北九州地区11教会で
取り組まれました。(5p詳細)



写真は湯川教会の募金活動

(1面続き)
 多くなると思われるかも知れませんが、実際は信徒協会議に出てくるには相当の犠牲が必要です。使徒職グループをはずせば豊かさがなくなりません。

【他の司祭の意見】

①この会則の話が出てきたのは、司祭交代で、前の代表者を認めないとかの問題だと聞いた。会則案は(前地区長と信徒協で決めた)ものでいいと思います。また、いろんな団体が参加するのは個人的に賛成です。教会の代表者ばかりでやるものではないと思います。
 ②会則案の身をなぜ変える必要があるのでしょうか。

このような意見や質問が出され、討議していくうちに「宣教司牧評議会」と「信徒使徒職協議会」へと話題が移り、信徒から「司教様、信徒協を宣教司牧評議会に変えたいと思つていますか?」との質問が出されました。

【宮原司教から】

そのあたりをみれば、話の共通点があります。もう一度読

し合ってもらいたいと思つています。宣教司牧評議会は必要と思つますが、信徒使徒職協議会をどうするかまでは決めていません。あくまで議論の余地があります。

【信徒から】

司祭会議に出された信徒協の会則試案では、名称・目的・活動が熊本地区宣教司牧評議会と同じです。宣教司牧評議会と信徒使徒職は、目的が全く違いますからこれを話し合うのは難しいと思つています。

この後も活発に懇談が続きましたが、最初の修正点については、課題として残されることになりました。
 懇談の最後に宮原司教は参加者一同に3点を述べられました。
 一つ目は、根底に流れている司祭と信徒の関係はどうあるべきかです。信頼関係について。キリストを中心としてそこを見つめるとき本当のありようが見えてくると思つています。

二つ目は使徒職についての共通理解。公会議が終わって

み直してほしいです。
 三つめは会則とは何のためなのかです。どのようなかであるかはそれぞれの受け止め方ですが、何か問題があるとききちんと進める役目があると思つています。
 (お疲れ様でした。)

【広報部より】

長時間に及ぶ懇談をわずかな紙面でお伝えするのは正直無理なのですが、できる限り大切なポイントをお知らせしたつもりです。詳細は参加された方々にお尋ねください。
 今回の懇談を取材して、数点感じたことがあります。

- ①信徒協代表者会議には、これまで個人的な参加は誰一人いないのに「個人的な参加もあるのではないか」と司祭団からそう思われている点。
- ②「信徒協」は「地区代表者会議」なのか「地区の使徒職活動を推進する会議」なのかその見方に相違がある点。
- ③会則の文言について、厳密にした方がよいか、あるいは幅を持たせた方がよいかの点。たとえば任期の問題。

これらのことを感じました。そして相違点ではないにしても信徒からの次の意見は決して横におかれるものではないと思つています。それは、「正義と平和全国集会福岡大会を根本から支えたのは北九州の活動です。16分科会のうち12ほどは北九州のみなさんが関わっています。普段の活動があつて教区主催となり盛り上がり上がってきたと思つています。この懇談会も正義と平和のことで盛り上がることを期待しました。」

これは信徒使徒職活動を考へる上で大切な意見でしょう。活動的な信徒たちの存在がなければ福音は社会の中に浸透できないのではと思つています。私たちがこれまで学んできたこと、信徒の使徒職とは「日常の中でキリスト教的なあかしをし、この世界がより福音的になるよう刷新され、正義と平和の社会が実現されるよう、日常生活の中で働き、奉仕すること」が思い起こされました。(岩本)

震災支援の働きから

三ヶ島 富美江(戸畑教会) No.3

私たちは、ニュースや雑誌、活動をしている方々から報告等で、福島からのメッセージを知ることが出来ます。

この事で、何もしないでいられなくなった私たちは、思いを寄せ続けることができました。これは、私たち自身がしたと言う事でなく、天からの恵み、天が導いてくださっているからです。多くの被災された方、また遠く離れて思いを寄せている者たち、全ての縁は天が結んでくださった大切な一人ひとりで、神様の手足と思えてならないのです。

私たちは小さな存在だけど皆で手を取り合う時、必ず神様が関わっていて、本当に大切な大切な必要な力になっていると思つています。

この力が小さくても生かしましょう。「おはよう」と明るく声をかけることで、そこには暖かい嬉しくなるエネルギーがきつとあつて、幸せな気持ちになると思つています。こんな一言を「エネルギーを与える力」にしていきましょう。

正義と平和全国集会福岡大会

カン・ウイル司教基調講演

②

二〇一四・九・十三

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢観ながら

「国家とは」

20世紀前半、人類は2回の大戦を通して大きな真理を学んだと思います。数えきれない人の命を亡くし「この世で何よりも大切で最高の価値を持つものは人間の命である」ことをやっと悟ったのではないかと思えます。たとえ国家といえども、人間の命や基本的人権を勝手に剥奪する権利は持たないということですね。戦争の惨劇と数少ない命の犠牲、その命は国家の価値を超える、国家が存在する以前に、国家に権威や尊厳を与

えるが、人の命であるという認識が、基本的に何千万の人類の犠牲によってようやく浮き彫りにされてきたのではないかと思えます。

1948年、国連は50ヶ国の連名で世界人権宣言を発表しました。この背景は、2度の世界大戦、特に600万人におよぶユダヤ人を含む無実の民間人虐殺事件があまりにも大きな非人道的犯罪との思いがあつたのではないかと思えます。

人類歴史上、大量虐殺を行つた犯罪は数えきれませんが、国家間の戦争が行われたとき、軍人より無防備の民間人が殺害されることが多々あります。今も続くイラク、シリアの内戦などで民間人虐殺が行われ、大部分が国家の名で、あるいは民族の名で、あるいは国家の安保イデオロギ



の中で行われています。

私たちは国家といえど国民を守る尊い神聖な存在だと捉えがちだと思います。だから国の為に身を献げた人を尊敬し、愛国者と呼びます。しかし人類が歩んできた歴史を冷静に顧みたら、国家や民族が果たして崇高な絶対的価値を持つのかどうか、疑つてみる必要があるのではないかと思えます。なぜなら歴史の中で国家の名でもあまりにも恐ろしい不義と罪悪が平然と起こされてきたからです。そして国家の名で行動する人たちが国民全体の同意や共感を得ることなしに、少数権力者たちの偏つた理念や権力の為に働く場合が非常に多かつたからです。

今現存する地球上の国家は殆どが建国200年足らずで、現在の国家意識は初めからあつたわけではありませぬ。国々の間で互いに侵略したり抵抗したり、一方で抑圧すると他方で防衛するという体験が蓄積されながら、短期間に形成されたのが国家という概念だと思えます。

今、世界最強の国力を誇っているアメリカ国家が建国されて225年位しか経っていません。それ以前、その存在しなかつた国が、今世界をほとんど支配していると言つても過言ではないと思えます。アメリカが独立した頃、アメリカとカナダ地域に住む、いわゆるネイティブ・アメリカンの人口は少なくとも一千万人以上と言われ、ヨーロッパ系移民は当時百万人程度しかいませんでした。しかし、19世紀末にはヨーロッパ系移民が一億人に達し、ネイティブ・アメリカ人の数は50万人に激減しました。この百年間に何が起つたのか。原住民たちは移民からなるアメリカ政府の抑圧と、戦いによる殺戮、強制移住によって、飢餓と病で激減していったのです。そして大陸全体を占領しながら、元の主人である原住民たちを狭い保護区域の中に閉じ込めてしまいました。これがアメリカという国家と国民が形成された過程です。

数年前、ニューヨークのグランドゼロを訪問し責任者の方が9・11のとき、消防隊員や警察官が犠牲的に身を投げ出したかを語ってくれました。でも私は一緒にいたその小教区の主任神父に「この場所では何故起つたのか、そしてその犯人たちはどういう理由で何故そんな悲しい非人間的な事故まで起こして世界の注目を集めたいと思つたのかを研究することはされていませんか」と尋ねました。神父さんは、ニューヨークでは、それを口に出すことさえもなかなか難しいのですと告白しておられました。

日本も明治以前は、国といえは自分のふるさとの藩を指していました。国家、という言葉が重みを持ちはじめたのは、諸外国と対抗して藩体制を崩して、天皇中心の国家体制を固めていくためにあつたのではないかと言われています。そしてロシアと中国との戦争を行いながら、日本はもと国家という概念をゆるぎないものとして固めていったのではないかと思えます。しかしこの国家という新しいイデオロギーが日本の国内外に、多くの人に大変な試練と苦しみを与えることになつたのではないかと考えることもできると思えます。(次号へ)

「第10回移住労働者と連帯する全国フォーラム・関門2015」 開催のお知らせ

日本に在留する外国籍の人たちの人権や様々な課題について取り組むNGOの全国フォーラムが6月13日(土)・14日(日)に八幡西区折尾にある「九州朝鮮中高級学校」において開催されます。この全国フォーラムは、第一回を1996年4月末に福岡市のカトリック大名町教会を会場に開催されました。この福岡フォーラムの翌年の1997年に「移住労働者と連帯する全国ネットワーク(略称・移住連)」が結成されました。それからこの全国フォーラムは全国各地で開催を続け、今回の第10回は九州での開催となりました。

明治以降近代日本の発展期から大陸の玄関口として発展してきた関門地区で開催することになりましたので、名称を関門フォーラムとし下関地区の人たちと一緒に準備をしてきました。そのため実行委員会には、下関地区のNGOが集まる「下関労働教育センター」所長の林神父様も共同代表となって参加しています。

会場は八幡西区折尾にある「九州朝鮮中高級学校」をお借りすることになりました。関門地域において、多文化・多民族共生社会を語る時、在日韓国・朝鮮の方たちを抜きにすることはできません。その象徴的な学校である「九州朝鮮中高級学校」での開催は全国的にも非常に意義のあるものとなっています。

昨年7月から実行委員会をつくり準備が進んでいますが、今回は外国人問題に取り組んでいる市民団体が少ない関門地区での開催ですから、このような課題にあまり接したことがない人たちにもたくさん参加していただくようにプログラムを考えています。

「外国人の人たちが日本で生活する時にどんな問題があるのか」という質問を勉強不足の新聞記者から受けたことがあります。外国籍の人たちも私たちと同じ人間ですからあらゆる問題があります。日本人の私たちが抱える当たり前の問題以外に、在留許可の問題や子どもの問題など外国籍だからこそ大変な問題がたくさんあります。

6月13日(土)の1日目は13時から様々な問題に関する分科会を予定しています。夜には全国から来られた人たちと一緒に交流会を開催することになっています。14日(日)の2日目は9時から、いくつかのテーマの短い講演会を予定しています。専門的な方たちなら知っている問題も、普通に生活している人たちは知る機会の無い問題、たとえば排外主義(ヘイトスピーチ)についてなどの講演を準備しています。

多くの方の参加をお待ちしています。なお、詳しい案内のビラやポスターは3月から皆さんの所に配布できる予定です。

在留カードについて法務省の新しい対応が始ります。

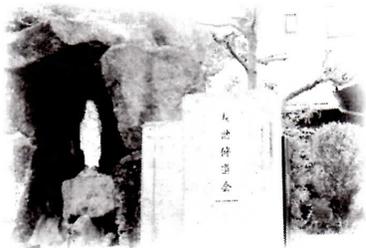
2012年7月に施行された改定入国管理法等は、施行時から法務省は、「三年間は猶予期間として見直しもある」と表明していました。

今年7月に完全施行状態になりますが、依然として10万人以上の方が外国人登録証を在留カードに切り替えていないことが分かっています。改定前は切り替え日前に市町村から切り替えの案内が出されていましたが、全ての外国人の情報を法務省に集中させる施策であるため、個別にお知らせを出すことはしないと表明していました。

しかし、10万人以上の人たちに法律の改定が伝わっていないことが明らかになったため、法務省は未だ切り替えていない人にお知らせを出すことが決定しました。NGOが何度も申し入れていたことが実を結びました。外国籍住民の隣人や知人がいましたら、在留カードに切り替えたかと聞いてください。お願いします。
(岩本光弘)

援助修道会 黒崎修道院

福岡教区80年の歴史に終止符



神の愛するひとり子イエスの祝
福と恵みが豊かにありますように
神の恵みを受け、援助修道会が
福岡教区に定着してから、やがて
傘寿を迎えることとなります。こ
れまで、教会、老人ホーム、幼稚園
を通して、信徒の皆様、また地域の
皆様方の中で、「ヨセフさん」の愛称
で、とても親しまれて参りました
が、社会の少子高齢化に伴い、私た
ちも高齢化が急速に進み、使命を
果たすことが困難となり、この地で
の歴史を閉じることになりました。
長い間に築かれた絆は断ち難いも
のですが、キリストのうちに在っ

て、これからも、祈りを通して、皆様
と繋がっていけたらと望んでおり
ます。
これまで、共に歩み、支えて下さ
った皆様へ、お別れのご挨拶を申し
上げますと共に、これまでのご厚情
に心より御礼を申し上げます。
新しい年のご多幸をお祈り申し
上げつつ
感謝のうちに

援助修道会黒崎修道院

柏瀬百合子

★ ★ ★ ★ ★
お世話になりました。
新たに派遣された場での活躍を。

年末愛の募金活動

待降節に入ると年末にかけて
北九州地区の教会では愛の募金
活動が始まります。街頭での募
金活動を行ったのは7教会あり
ました。「寒い中、たくさんの子
どもが参加し、大きな声で呼び
かけてくれたので例年になくた
くさんの募金が集まった。」など
の声が寄せられました。門司教
会では教会内募金が4万5千円
に対し、17万円以上が街頭募金
で集まり、嬉しい悲鳴も。

10教会で1,179,327円



戸畑駅での街頭募金活動
(戸畑教会)

ご案内

第53回 音楽と祈りの夕べ

いのち ~被災地は今~

震災と津波から4年経った今、「いのちのステージを通して復興に向かう被災地の人々を知り、いのちに寄り添いたい…」

日時：3月8日(日) 15:00~17:00
(開場14:30 開演15:00)

会場：カトリック小倉教会
入場料：高校生以上1,000円(中学生まで無料)

主催/東日本大震災被災地支援「音楽と祈りの夕べ」実行委員会
後援/カトリック福岡司教区震災被災者支援室

四旬節 共同回心式日程

日付	教会名	時間
2月28日(土)	門司	14:00(2月28日)
3月1日(日)		09:30(3月1日)
3月3日(火)	戸畑	10:30, 19:30
3月6日(金)	若松	19:00のみ
3月10日(火)	行橋	11:00, 19:30
3月11日(水)	豊津	19:30のみ
3月12日(木)	新田原	10:00, 19:00

日付	教会名	時間
3月13日(金)	水巻	10:00, 19:30
3月13日(金)	湯川	19:30(3月13日)
3月14日(土)		10:30(3月14日)
3月25日(水)	天神町	11:00, 19:00
3月26日(木)	黒崎	10:30, 19:00
3月27日(金)	小倉	10:30, 19:00

2月11日(水)

脅かされつつある信教の自由

共にキリスト者の使命を学ぶ

「建国記念の日」は、キリスト者にとって、信教の自由を守る大切な日です。もともとこの日は1945年の敗戦まで「紀元節」と呼ばれ、国の祭日でした。戦前の天皇制が軍国主義と深く結びつき、戦争へと突き進んだ歴史があります。戦後「紀元節」はなくなつたのですが、1966年「建国記念の日」として公布されました。その後の日本は、元号法制化・日の丸君が代国旗国歌法制定、さらに近年になつて集団的自衛権行使容認・特定秘密保護法など平和

の道から大きく逸脱しているようです。現在、日本のキリスト教会はカトリックも含め、多くが戦争に協力したことを反省し、戦争へと繋がる道に反対の声をあげています。



北九州地区では、日本キリスト教団東篠崎教会で信教の自由を守る集会が開かれ、バプテスト教会、在日大韓基督教会、日本基督教団、日本キリスト教会、カトリックなどから約100人が参加しました。

講師は、西南学院前院長の寺園喜基さん。テーマは「ドイツ教会における対ナチ闘争・戦責告白と今日の課題」。

ヒトラー政権下でナチスのイデオロギーを肯定する「積極的キリスト教(ドイツ的キリスト者)」に抗い、聖書に基づいて「告白教会」が形成したことを話されました。戦後、ドイツの教会では戦争責任と罪責告白を行い、それが国の戦責告白(ワイツゼッカー大統領の『荒れ野の40年』など)へとつながっていったとのこと

です。講演の最後に寺園喜基さんは、東日本大震災から「イスラム国」の人質殺害を経て、「ガンバレ日本」から「国家主義的な日本」へ移っているようにだと話しました。

質疑応答の後、3人のパネリストが発題しました。カトリック信徒との瀬下幸弘さんは、「奄美大島におけるカトリック排撃運動」と「上智大学生の靖国神社参拝拒否問題」の時代的背景が、現在とそっくりに感じると話しました。

在日大韓小倉教会の朱文洪牧師は、歴史と向き合うこと、筑豊など現地を訪れることとで出会いや和解の年にしたいと強調しました。日本キリスト教団の川本良明牧師は、「今人種的差別の憎悪が起こり、暴力化になつて

いる。なぜこうなつたのか」と問いかけ、過去の歴史が克服されていない点などを話されました。講演を締めくくつたバプテストの藤田牧師は、「現在キリスト者は神と富の両方に仕えているのでは」と投げかけ、また信教の自由集会の大切さを述べました。

ニュースあれこれ

◆音楽と祈りの夕べ(5D)

5ページにお知らせしていますが、3月8日(日)当日のカトリック小倉教会でのお車の駐車はできませんので、公共機関か有料駐車場をお使いください。

◆大会報告書を配布中

昨年9月に行われた正義と平和全国集会福岡大会の報告書ができ上がりました。参加された方々にもれなく配つていますが、受け取つておられない方はご連絡下さい。また事務局には少し報告書の在庫がありますので、大会に参加していない方でもお分けすることも可能です。

FAX(093)622・1290

◆正義と平和全国代表者会議

2月13日から15日にかけて東京で開催され、福岡教区から5人の信徒と司祭が参加しました。福岡大会の熱い思いがそのまま、参加した全国代表者に伝わっています。次回は東京大会です。とき/2015年9月21〜23日。詳細は後日お知らせ。

編集長の

最後のつづき

*この信徒協たよりの発行が始まつてから、年に3回の発行なので、この号で13年過ぎたこととなります。広報委員会がスタートしたとき、信徒協の委員会から指名されて担当委員を引き受けることになりましたが、この号までで次の委員にバトンタッチすることになりました。

*イエス様が話して下さい、実行して見せてくれたこと。その後、聖パウロが各地を歩いてイエス様の教えを具体的に教えてくれたこと。この教えと現代社会で起こっている問題は無関係ではないと確信してこの広報紙を編集してきました。

*フランシスコ教皇様の話の内容は、イエス様が私たちに示してくれたことを分かりやすく話されているだけだと思ふのです。しかし、教皇様の話が新鮮に感じられるのはどうしてでしょうか。

*長い間のご協力を心から感謝します。有難うございました。(岩本)